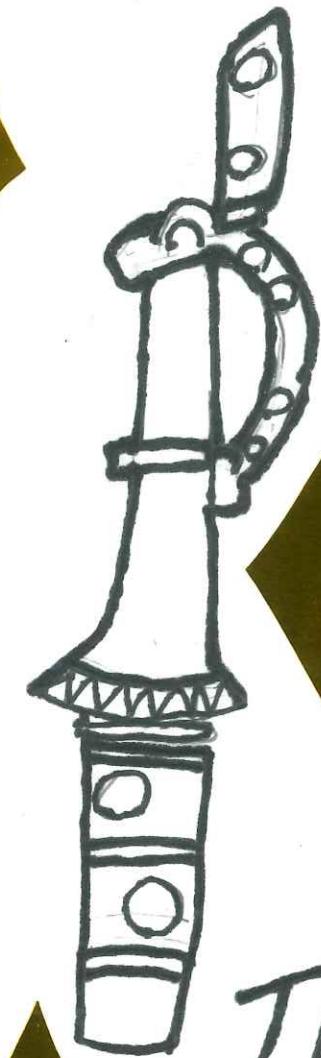


太田市立旭小学校四年 和田和士

「返却希望」

刀剣なのが?
刀はかな?

古墳時代の刀
は刀かな?



1. 研究のきっかけ

ぼくは、1年生の時馬のはにわの研究をしました。古墳の形がちがっても、馬のはにわがばられていることが分かり、馬はきちょうど大切にされていました。2年生の時、おじいちゃんをしている男のはにわを調べました。ひざまづくすかたは古墳時代のあいさつだと分かりました。3年生の時、ぼくの家の屋根の形と同じのはにわを研究しました。入母屋造の家形のはにわは、6世紀に見られ、つかまわり古墳群第4号古墳のものが東国でもっとも古いものだと分かりました。

今年の夏、戦国上州の刀剣と甲冑を見に行きました。中世に刀剣作りにすぐれた刀工がいたそうです。ぼくは、不思議に思いました。古墳時代にも立派な刀を見たことがあるし、こしに刀をつけたはにわを見たことがあります。

そこでぼくは、古墳時代の刀は刀剣なのか何のための刀なのかを



調べることにしました。

2. 研究の方法

- ① 刀について調べる
- ② 古墳時代の刀について考える
- ③ 刀の埴輪を調べる

3. 研究の内容

- ① 刀について調べる

刀は、武器(刀剣)の一種であり、片側にしか刃のないもののこと。切断力を増すために反りの入ったものが多い。それに対して反りのないものは直刀とする。

日本においては平安時代のころから独特的の反りをつけた「太刀」と呼ばれる刀が製作され、武器となり「日本刀」といわれるようになる。



刀剣、太刀、日本刀



太刀
直刀
上古刀
上古刀

また、直刀を大刀や「上古刀」ということもあるそうです。

「戦国上州の刀剣と甲冑」…刀剣、太刀 日本刀

古墳時代の刀 …大刀 直刀 上古刀



種類がちがう

ということか

分かりました。

▲銀装圭頭大刀
(高崎市、
観音塚古墳)

直刀の歴史を語ると、弥生時代の後期に出土している。中国大陸から運ばれたと考えられている。

鉄製の刀が日本で生産されるようにな、たのは古墳時代以降といわれている。古墳時代前半は、直刀よりも曲刀の剣が多かった。古墳時代後期は、直刀が用いられた。この直刀は、「装饰付大刀」と呼ばれ、金・銀・金銅のきらびやかなかざりがついたものが大量に出現したそうです。本来の武器としての使用のほかに、儀礼用に使われていたことが分かっている。



②古墳時代の刀について考える



「金銀装頭椎大刀」



「銀錯龍文捩環頭大刀」

ほくは、古墳時代の刀ですぐに思いついたのが、綿貫
雀見音山古墳から出土した「金銀装頭椎大刀」や「銀錯龍文
捩環頭大刀」です。ほくの両手を広げたくらいの長い刀を
見たことがあります。周囲でみると、「金銀装頭椎大刀」は、
朝鮮半島から技術移行を受けた金属装大刀だと分かり、群馬県
内の最上位層だけが所持することを許された大刀であった
と考えています。「銀錯龍文捩環頭大刀」は、木芯を
銀板でまとい、これに半円形をした捩環を取り付け
た木柄頭と筒状をした金具がついています。この刀は、
大刀井埴輪のモデルになっています。

綿貫雀見音山古墳は、6世紀後半に築かれた古墳
です。

飾り大刀“量、多様さ”なぜ東日本一？ 高崎の博物館で企画展

2019年12月23日 02時00分



長根遺跡・安坪古墳群出土で、精巧な作りが美しい「単鳳環頭大刀」=いずれも高崎市のかみつけの里博物館で

古墳に副葬され、金銀などできらびやかに装飾された大きな刀に焦点を当てた企画展「飾り大刀（たち） 武器からみた古墳時代のぐんま」（東京新聞前橋支局など後援）が、高崎市井出町の「かみつけの里博物館」で開かれている。県内ではこれまで約百六十点が出土し、その数や種類の多様さは東日本随一とされる。なぜこれほど集中するのか。展示資料から古墳時代の群馬に迫る。（石井宏昌）

五～七世紀に古墳に副葬された飾り大刀は権威の象徴として儀式などに用いられたとされる。古墳の中でも限られた一部でのみ埋葬され、希少という。

会場では「甲（よろい）を着た古墳人」の発見で注目された金井東裏遺跡（渋川市金井）から出土の大刀を博物館施設では初公開するほか、高崎市で出土し、向き合う二羽の鳳凰（ほうおう）が装飾された「双鳳環頭（そうほうかんとう）大刀」を所蔵する東京国立博物館から「里帰り」展示する。

長根遺跡・安坪（あづば）古墳群（高崎市吉井町）から出土し、精巧な作りが見事な「単鳳環頭大刀」もある。

飾り大刀の種類やさまざまな装飾の技法、加工技術の高さが分かる資料に加え、当時のきらびやかな姿に復元した飾り大刀など計九十六点を紹介。古代の群馬「上毛野国（かみつけのくに）」と当時の畿内政権との関係性や朝鮮半島との関わり、被葬者たちの姿を探る。

インターネットで、高崎の博物館で、かぎり大刀が展示されたことがありました。
群馬県では、約160点が出土し、96点がかぎり大刀です。
古墳にふくそうされたかぎり大刀は、権威のようとして儀式などに用いられたことがあります。
ほくは、かぎり大刀がこんなに多く出土していることにびっくりしました。それだけ力をもっていたことが分かりました。

③刀の埴輪を調べる

ぼくは、刀の埴輪を塚回り古墳群第4号古墳で見たことがあります。ぼくの背と同じくらいの大刀形埴輪が墳丘部の西側にくぐりと4体置いてありました。

塚回り古墳群第4号古墳の大刀形埴輪を調べてみると、单戈のアヘムではなく、いげんを示すアヘムだと考えられています。半円上の捩り環について、勾金には三車輪玉がついている

勾金 → サヤの下には、ギザギザもようがあり、よけを表しています。
 三三 → 捶り環豆頭大刀であり、銀錯龍文撾り環豆頭大刀と
 輪玉 → 環にいることが分かる。この大刀は、王の持つ大刀を表して
 いるそうです。



DATA 国指定重要文化財

正式名 大刀形埴輪 年代 6世紀前半

高さ 132.6cm (基台の高さ: 57.0cm)

出土場所 塚回り古墳群第4号古墳(太田市)

展示施設 群馬県立歴史博物館

塚回り古墳群第4号古墳は、6世紀前半に築かれた古墳です。

SO SIMPLE!



その他にも、6世紀後半の中原1号古墳から出土した大刀形埴輪があります。勾金に三輪玉や鈴でかざられていました。高貴な人が持つ刀だそうです。

また、6世紀後半の平井地区1号古墳から出土した大刀形埴輪にも、勾金に三輪玉と呼ばれる鈴のようなかざりがついています。さやにはもようがついています。

大刀形埴輪は、王が持っていた儀礼用のかざり大刀です。古墳の外敵が守ることを表して

います。

DATA

正式名 大刀形埴輪

年代 6世紀後半

高さ 88.5cm

出土場所 中原1号古墳(高崎市)

展示施設 吉井郷土資料館

6世紀後半の神保下條2号古墳から出土した大刀形埴輪には、捩り環がついていたり、勾金に三輪玉がついていたりしています。ぼくが今回調べた

大刀形埴輪は、かざりがたくさん

ついていて、どうかなものばかりでした。

玉まきの大刀のもとになる姿風

大刀を表したもの

だそうです。

No. 189
大刀形埴輪

小古墳のもの
とは思えない
立派な大刀が5
体以上出土！

① 大刀形埴輪 6世紀後半

② 左:98.5cm、右:113cm

③ 神保下條2号古墳(高崎市)

④ 県埋蔵文化財調査センター(発掘情報館)



DATA 国指定重要文化財

正式名 大刀形埴輪

年代 6世紀後半

高さ 左:95cm、右:108cm

出土場所 平井地区1号古墳(藤岡市)

展示施設 藤岡歴史館

4. 研究の結果

ほんは、古墳時代の刀を調べました。それは、戦国時代の刀剣を見てよく思っているからです。刀剣は、反りがついたもので、「大刀」や「日本刀」といわれ、古墳時代の刀は反りがない直刀や「大刀」というもので種類がちがうことが分かりました。

古墳時代の刀は、直刀がつかれ、金銀銅のきらびやかなかざり大刀が大量に出土していました。古墳の中にもまいそうされたこのかざり大刀は、権威のようとして儀式に用いられていました。群馬県から出土したかざり大刀は、数や種類の多さは東日本一であり、それだけ力をもった人がいたことを表していると思いました。

また、刀の埴輪である大刀形埴輪を調べてみると、大刀は王のもつ大刀を表していて、儀礼用のかざり大刀といふことが分かりました。つまり直刀のかざり大刀を大刀形埴輪で表し、王がねむる古墳を外敵から守る役目をしていることが分かりました。

もしかしたら、かざり大刀のきらびやかな様子を古墳の上にも表したくて大刀形埴輪が作られたのではないかと考えました。

ほくが言べた大刀形埴輪は、かざりがたくさんついていてごうかなものはかりでした。それは古墳時代の直刀がごうかだ、たことを伝えているのだと思いました。

さらに古墳時代の刀は、権威を示すもので儀式に使うものであり、戦いをイメージするものではないことが分かりました。

5. さん考にした本

- ・群馬県立歴史博物館 まやじき群馬のはにわ(令和二年)
- ・右島和味 わがさとよる HANI一本 群馬県
- ・群馬県立歴史博物館 綿貫観音山古墳のすべて(令和二年)

6. さん考にしたインターネット

- ・ウキハティア 日本刀 直刀
- ・<https://www.city.takasaki.gunma.jp/>